

## 第6回ふね遺産認定式（WEBハイブリッド方式で開催）のお知らせ

歴史的で学術的・技術的に価値のある船舟類およびその関連設備を「ふね遺産」(Ship Heritage)として認定し、社会に周知し、文化的遺産として次世代に伝えるため、日本船舶海洋工学会が発足させたふね遺産認定事業も今年で第6回を迎え、新たに次の3件を決定しました。

(<https://www.jasnaoe.or.jp/enlightenment/funeisan/06.html>)

### ■大阪市の渡船

水都大阪の交通を支えてきた渡船システム

### ■全軽合金製 15m 型巡視艇「あらかぜ」

わが国で初めて軽合金を全面採用した高速船

### ■箱館丸

日本人が建造したスクーター型西洋帆船の先駆け

認定式は令和4年9月27日に行われますが、対面形式に加え、WEBを利用したハイブリッド方式を取り入れ、遠方の方にも広く参加いただけるようにいたしました。記念講演もありますので多くの皆様のアクセスをお待ちしています。

日時： 令和4年9月27日(火) 14:00～15:40

Zoom ウェビナー

URL：<https://us02web.zoom.us/j/86744102470>

### <プログラム>

14:00～14:05	挨拶	日本船舶海洋工学会会長	藤久保 昌彦
14:05～14:20	第6回認定ふね遺産紹介	ふね遺産認定実行委員会委員長	小嶋 良一
14:20～14:30	認定書授与式		
14:40～15:40	記念講演		
	深海を拓く—ふね遺産 有人潜水調査船「しんかい2000」の運航秘話と潜航成果—		
	講師	海洋研究開発機構 小倉 訓、赤澤 克文	

なお、WEB参加の方にはご発言いただけませんのであらかじめご了承ください。

また記念講演詳細につきましては添付チラシをご覧ください。

## 深海を拓く一ふね遺産 有人潜水調査船「しんかい2000」の運航秘話と潜航成果一

建造の経緯と機器の整備

講師 海洋研究開発機構 小倉 訓

海に潜って見られた景色

講師 海洋研究開発機構 赤澤 克文

「しんかい2000」は深海の調査研究に多くの成果をあげ、「しんかい6500」建造のための基礎技術を確認した有人潜水調査船として昨年ふね遺産第33号に認定されました。

第6回ふね遺産認定式にあたり、その運航に関わってこられたお二人に特別講演をお願いすることといたしました。

「しんかい2000」は、1983年7月から本格的な調査潜航が開始され、約20年間で1,411回の潜航を行ないました。総潜航時間は7,527時間39分、このうち調査研究潜航は1,063回で、そのほとんどが日本周辺海域であり、相模湾が最も多く318回、次に駿河湾が269回となっています。1986年に沖縄トラフで初めて熱水噴出現象が発見されてからは、南西諸島海域での潜航も増え、沖縄・伊平屋海域で96回の潜航を行ないました。

小倉講師には、「しんかい2000」の建造の経緯と7年半にわたり深海調査機器の整備に関わられたお話などをご講演いただきます。

また赤澤講師には、それまでの科学的常識を覆す発見を多く成し遂げ、未知の世界であった深海に光を当て、実際に研究者が現場に行き、その目で深海の様子を観測、調査することを可能にした「しんかい2000」で、海に潜って見られた景色を紹介していただきます。



### 講演者略歴

#### ■小倉 訓（おぐら さとし）

1983年海洋科学技術センター（現海洋研究開発機構）入社。「しんかい2000」の整備士、潜航士を担当後、「しんかい6500」船長、司令を経て、現在、安全衛生監理室長

#### ■赤澤 克文（あかざわ かつふみ）

「しんかい2000」の整備士、潜航士を担当、107回の潜航を行う。その後「しんかい6500」で世界各海域での潜航作業を経て、現在、総務部 法務・コンプライアンス課シニアスタッフ